

フィリピン共和国上院議長、インド連邦議会上院議長及び
シンガポール共和国国会議長の招待による各国公式訪問参議院議長一行報告書

団	長	参議院議長	伊達 忠一
		同夫人	伊達 祐子
		参議院議員	吉田 博美
		同	魚住裕一郎
		同	那谷屋正義
		同	山下 芳生
		同	儀間 光男
同	行	国際部長	加賀谷ちひろ
		議長秘書	内田 衡純
		参事	中村 壽志
		同	牧志 俊
		警護官	山田 文彦
		同	山本 敏夫

一、始めに

伊達参議院議長一行は、平成三十一年（二〇一九年）一月八日から十五日まで、フィリピン共和国ヴィセンテ・ソト三世上院議長、インド国ヴェンカイア・ナイドゥ連邦議会上院議長及びシンガポール共和国タン・チュアンジン国会議長の招待により、各国を公式訪問した。参議院議長の公式訪問は、インドについては四十二年ぶり、フィリピン及びシンガポールについては、今回が初めてとなった。

各国において、一行は、議長・副議長を始めとする国会議員、政府要人等との意見交換を行った。意見交換においては、いずれの国においても双方から、両国間の人的交流や議員間・議会間交流の促進の重要性について指摘があった。また、一行は各国において、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック及び二〇二五年に大阪での開催が決まった万国博覧会のために、多くの訪問国国民が来日することを歓迎する旨表明した。

二、日程

一月八日（火）東京発、マニラ着

ドゥテルテ・フィリピン大統領表敬

一月九日（水）

ピメンテル・フィリピン上院議員及びドリロン上院議員表敬、両上院議員主催昼食会、マニラ市内視察、在留邦人との懇談、アロヨ下院議長主催夕食会

一月十日（木）マニラ発、シンガポール経由、デリー着

一月十一日（金）

デリー市内視察、国会議事堂（上院議場、下院議場、議会博物館等）視察、ハリワンシュ・インド上院副議長表敬、上院副議長主催昼食会、在留邦人との懇談

一月十二日（土）

タージ・マハル視察

一月十三日（日）デリー発、シンガポール着

在留邦人との懇談

一月十四日（月）

タン・シンガポール国会議長表敬、新旧国会議事堂視察、チョン国会副議長主催昼食会、本会議傍聴、マリーナ・ベイ・サンズ視察

一月十五日（火）シンガポール発、東京着

三、フィリピン共和国

（一）フィリピンの政治経済事情等

フィリピンは、人口約一億九十八万人で、多くの島で構成され、面積は日本の〇・八倍である。二〇一六年に発足したドゥテルテ政権は、違法薬物対策、汚職撲滅、治安・テロ対策、ミンダナオ和平を重要課題としている。経済面では、一九九九年以降プラス成長を維持している一方で、所得分配の不平等は変わらない。外交・安全保障面では、独立した外交政策として、対米依存を和らげ、中国やロシアとの関係強化に前向きである。在日フィリピン人が約二十四万人に上るなど、我が国とは人的つながりが深い。二国間関係は、戦略的パートナーとしての安全保障協力が進展している。また、我が国はフィリピンにとって最大の輸出相手国かつ最大の投資国であるとともに、最大の援助供与国でもある。

（二）ドゥテルテ大統領表敬

一行は、大統領官邸であるマラカニアン宮殿を訪問し、ドゥテルテ大統領との会談（ロクシン外務大臣ほか同席）を行った。なお、一行は、ロクシン外務大臣と日比交流等について別途懇談した。

会談の中で、大統領は、両国の長年にわたる平和的關係の例として、ダバオ市長時代に日系人墓地にポケットマネーで記念碑を作ったエピソードを紹介した。そして、日本の有償・無償資金協力によるフィリピンの経済発展への貢献、ミンダナオ地域における和平に向けたプロセスに対する支援への感謝の意を表した。また、中国の南シナ海での軍事化拡大、米中間の貿易に関する対立を懸念しており、平和的な解決を願っている旨述べた。

伊達議長は、昨年台風被害へのお見舞いを述べた上で、防災・減災分野での両国の協力への期待を述べた。そして、大統領と安倍総理が六回の会談を重ね両国関係が戦略的パートナーシップの黄金時代を迎えたとも評されると指摘し、新設のダバオ総領事館への期待を述べた。また、ミンダナオ和平については、大統

領のリーダーシップの下で昨年七月バンサモロ基本法が成立した意義は大きく、日本政府のコミットの在り方を注視していきたい旨、南シナ海における対立については、平和的な話し合いにより前向きに解決されることを期待する旨述べた。

（三）ピメンテル上院議員等表敬

一行は、ピメンテル上院議員及びドリロン上院議員（比日友好議連会長）と会談を行った。フィリピン議会は、いずれも選挙で議員が選出される上院（任期六年、二十四議席）と下院（任期三年、二百九十二議席）で構成される。参議院は過去三回フィリピン上院議長を公式招待しており、ドリロン上院議員は二〇〇四年に、ピメンテル上院議員は二〇一七年にそれぞれ上院議長として訪日している。

会談の中で、ドリロン上院議員は、特に貿易と観光分野における両国関係は強固であり続けると述べた。そして、参議院公式訪問時の思い出や両国議連間の交流実績等を紹介し、両国関係強化の功績により旭日大綬章を受章し光栄であると述べた。また、昨年の日本の入管法改正により、若く高い技術を備えたフィリピン人労働者が日本で活躍すれば両国国民が共に利益を受ける旨、日本の航行の自由原則を重んじ南シナ海での非軍事化の重要性を強調する姿勢に賛同する旨述べた。

伊達議長は、上院の公式招待に感謝の意を表した上で、昨年の台風被害へのお見舞いを述べ、自然災害の多い両国間の防災・減災分野での協力に期待する旨述べた。そして、ピメンテル上院議員との再会実現、両上院議員の議会間交流への貢献等に感謝の意を表した。また、首脳間の強固な信頼関係、フィリピンにとって日本は貿易・投資の最大相手国であること、安倍総理が二〇一七年一月に表明した五年間で一兆円規模の貢献の着実な実行状況等に言及した。入管法改正については、外国人が働いてみたい等と思える国を目指して講じられる総合的対応策を、参議院としても政府への質疑等を通じてチェックしていきたい旨述べた。

ピメンテル上院議員は、相互交流実現をうれしく思う旨述べた上で、参議院公式訪問時のもてなしへの謝意を述べた。そして、日本は常に主要な貿易国、最大の投資とODAの提供国であり、両国関係は力強いと述べた上で、ミンダナオ和平への継続的支援、マラウイの復興支援への感謝の意を表した。また、入管法改正を受け、多くの熟練した技術を持つフィリピン人が日本で雇用されることを望むと述べた。

（四）その他

両上院議員主催の昼食会において、両上院議員の配偶者等も交えて和やかな雰囲気意見交換が行われた。二国間関係、選挙制度、互いの国を訪問した際の思い出等広範多岐な話題について懇談し、出席者は親交を深めた。

アロヨ下院議長主催夕食会では、二〇〇一年から約十年間大統領を務めた下院議長の御夫妻のほか、故マルコス元大統領夫人のマルコス下院議員、サトウ下院

議員及びオーメンタード下院議員といういずれも知日派で有力な議員等から歓待を受けた。

また、一行は、フィリピン滞在中、マニラ市街、屋外マーケット等を視察した。ブラック・ナザレ祭開催の影響で、訪問直前に閉鎖が決まった上院については、外観を視察した。また、一行は、フィリピンの伝統的正装であるバロン・タガログを着用し、気候に合った服装であることを体験した。

四、インド

(一) インドの政治経済事情等

インドは、日本の約九倍の国土に世界第二位の約十二億一千万人の人口を抱える国である。一九四七年の独立以来軍事クーデターはなく、安定した内政運営を続けている。経済面では、モディ政権成立後、GDP成長率は高い水準を維持し、経済規模はアジア第三位である。外交面では、主要国との全方位外交を展開している。我が国との二国間関係は、両国の経済規模に比すと経済面において限定的であるとされる。また、インドは円借款の最大の受取国である。

(二) ハリワンシュ上院副議長表敬

一行は、インド上院を訪問し、ハリワンシュ上院副議長との会談を行った。インド議会は、上院（州議会議員による間接選挙、任期六年、最大二百五十議席）と下院（直接選挙、任期五年、最大五百五十二議席）で構成される。両院議員とも一部は大統領が任命する。なお、上院については、副大統領が上院議長を兼任する。

会談において、ハリワンシュ上院副議長は、両国は仏教を通じた六世紀からの歴史的関係の上に信頼関係を築いており、地域の発展と安定のためにも協力が求められている旨、両国の関係は二〇一四年に特別戦略的グローバル・パートナーシップへと強化され、多くの分野で大きく発展した旨述べた。また、両国の友好議連の活動等を紹介するとともに、両国首脳主導の下昨年デリーに開設された日本語教師養成センターへの期待、日本政府及び日系企業のメイク・イン・インディア等重要政策に対する貢献への感謝及び投資拡大への期待、円借款事業の成功例であるデリー・メトロに続く他の都市でのメトロ事業の推進状況等に言及した。最後に、本年日本で開催されるG20の成功を祈念する旨述べた。

伊達議長は、上院の公式招待に感謝の意を表した上で、去年は調整が整わなかったもので、改めて参議院として迎えるインド上院初の賓客として副議長を公式招待する旨述べた。そして、両国が普遍的価値と多くの戦略的利益を共有していること、モディ首相と安倍総理が十二回の首脳会談を重ねていることを指摘し、特別戦略的グローバル・パートナーシップの旗印の下、関係が深化していることを歓迎する旨述べた。また、インド太平洋地域の情勢が世界の安定と繁栄に与える影響は大きく、アジアの二大民主主義国とも称される両国関係の更なる進展を願

うとした上で、我が国の技術力や資金とインドの若くて優秀な人材と巨大な市場が結び付き、協力のフロンティアが多方面に広がることを期待する旨述べた。

同席したカリタ上院議員は、インフラ、開発に対する日本の支援と日系企業の製造業分野での投資と協力に感謝の意を表するとともに、文化やスポーツ分野における交流の重要性を指摘した。また、議会間の関係強化のため、交流に関する協定を結ぶことができればよいと考える旨述べた。

(三) その他

上院副議長主催の昼食会において、一行に配慮して辛さを控えめにしたカレーや寿司などが供され、出席者は二国間関係、選挙制度、相互の食文化等広範多岐な話題について懇談し、親交を深めた。

また、一行は、インド滞在中、デリー市内のインド独立の父マハトマ・ガンディーが暗殺された場所でもあるガンディー記念博物館、第一次世界大戦の戦死者を弔うため建てられたインド門、国会議事堂、官庁街、アグラにある世界遺産のタージ・マハル等を視察した。

五、シンガポール共和国

(一) シンガポールの政治経済事情等

シンガポールは、東京二十三区と同程度の面積を有する人口約五百六十一万人の国である。一九六五年の独立以来、人民行動党による安定した統治が続いている。経済面では、ASEANで最も経済が発展しているが、欧州債務危機等の影響で、二〇一一年以降、製造業を中心にそれ以前より経済は低調となっている。外交・安全保障面では、非同盟・全方位外交であり、アメリカ、中国等の主要国とも良好な関係を維持しながら、ASEAN外交を重視している。二国間関係は、特に、経済面においては、我が国にとって初のEPA締結国であり、緊密な関係にある。

(二) タン国会議長表敬

一行は、シンガポール国会を訪問し、タン国会議長との会談（チャン議員、リャン議員、ダビット議員同席）を行った。シンガポール共和国国会は、一院制で百議席から成る。議員には、三種類（直接選挙による選挙区選出議員、産業界、実業界等の代表の意見を国会の議論に反映するために指名される指名議員、総選挙の結果、野党議員が一定数に満たなかった場合に、落選した野党議員から選出される非選挙区選出議員）がある。シンガポール国会議長は過去三回参議院の公式招待で訪日している。

会談において、冒頭、タン国会議長は、シンガポール国民は日本が大好きで、自分も個人的に家族で訪日して和食や文化を楽しんでいる、両国関係のきずなは様々なレベルで深まっている旨述べた。

伊達議長は、議会の公式招待に感謝の意と前週の国会議長の誕生日に祝意を表した。そして、シンガポールにおいて昨年九月第三十九回ASEAN議員会議(AIPA)総会が、参議院議員も参加して、国会議長のリーダーシップの下で成功裏に開催されたことに敬意を表した。また、両国は基本的利益や考え方を共有する重要なパートナーであること、シンガポールがTPP11の発効やRCEP交渉の実質的進展に向けて尽力したこと、昨年ASEAN議長国として一連の会議を成功裏に開催したこと、昨年リー首相と安倍総理との間で首脳会談が二回実施されるなどハイレベルでの頻繁な意思疎通が継続していること等を指摘した。さらに、シンガポール・オリンピック評議会の会長を務める国会議長に対して、シンガポール・アスリートの活躍を祈念すると述べた。

タン国会議長は、人と人との交流は重要であり、公式・非公式の訪問を重ねたからこそ、TPP11やRCEPの交渉を進めることができたことと述べた。そして、世界は転換点を迎えており、その中で我々はアジア発展のためにも友好国である日本とともに、将来において全世界の成長モデルともなるよう貢献したい旨述べた。また、昨年十一月末に評議会の仕事で訪日した際、東京オリンピック・パラリンピックの開催準備の進捗ぶりに感心したと述べ、日本はスポーツ科学に力を入れており、二〇二〇年にはすばらしい成績を残すと確信している旨述べた。

昼食を挟み、一行は、対面式の議場においてタン国会議長主宰の下で開会されている本会議を傍聴し、同国会議長から出席国会議員に対して紹介を受けた。

(三) その他

チョン国会副議長主催の昼食会において、会談にも出席した国会議員等と懇談を行った。シンガポール国民の十人中一人は訪日経験がある中、先方国会議員からも冬を体験する目的等で何度も訪れている等の発言があった。

また、一行は、シンガポール滞在中、新旧の国会議事堂、同国に二つある統合のリゾート施設(IR)の一つであるマリーナ・ベイ・サンズ等を視察した。

なお、空港到着時にチョン国会副議長のお出迎え、出国時にチュアン国会副議長のお見送り等、シンガポール国会の温かいもてなしを受けた。

六、終わりに

今般の参議院議長の公式訪問では、三国それぞれで大きな歓迎を受け、また、各国議会・議員との交流を通じて相互理解を深めることができ、議会間交流の目的を果たすことができた。今回の公式訪問を契機に議会間・議員間の交流に一層の弾みがつくことを期待する。また、三国において、日本企業、JETRO、JICA等で活躍している合計十六名の在留邦人と懇談し、実体験に基づいた各国の実情、両国関係の課題等を伺い、理解を深めることができた。今回得られた知見は、本院の議会間交流の発展や、我が国と訪問各国との友好親善関係の一層の深化のために生かしてまいりたい。

また、各国訪問に当たっては、フィリピン大統領府の関係者、フィリピン上院、インド上院及びシンガポール国会の議会関係者並びに羽田浩二フィリピン共和国駐箚特命全権大使、平松賢司インド駐箚特命全権大使及び山崎純シンガポール共和国駐箚特命全権大使を始め、在外公館員等の多くの方々から多大なる御支援・御協力を得た。お世話になった皆様に対し、心より厚く御礼を申し上げる。